

～希少がんを知り・学び・集うセミナー！～

希少がん Meet the Expert

第9回「神経内分泌腫瘍(NET)」開催レポート

第9回「希少がん Meet the Expert」が9月13日(金)、国立がん研究センター希少がんセンターにて行われました(共催:がん情報サイト「オンコロ」、認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン)。今回のテーマは「神経内分泌腫瘍(NET)」。同センター肝胆膵内科 森実千種先生をお迎えし、講演いただきました。司会は希少がんホットライン担当看護師の加藤陽子さんです。



神経内分泌腫瘍(=NET)とは、「神経内分泌細胞(ホルモンを産生する細胞)」に発生する腫瘍です。原発箇所は膵臓・消化管・肺が多く、そのうち消化管は前腸・中腸・後腸に分けて考えられています。ホルモンを分泌する腫瘍であることから、低血糖、胃潰瘍、下痢など、ホルモンの過剰分泌による症状が現れることがあります。病理診断により、大きく高分化型(NET G1/G2/G3)と低分化型(NEC G3)に分けられ、その総称が「NET (Neuroendocrine Tumor)」とされています。(本来の名称は「NEN (Neuroendocrine Neoplasm)」)。慣習的に NET と呼ばれている)。森実先生のお話では、「NET は進行が緩やかで、NEC (Neuroendocrine Carcinoma) は速いことが特徴。そのため、どちらに分類されるかの判断が重要で、治療法も異なる」とのことでした。



NET の治療法として、「症状の緩和」と「腫瘍の治療」の説明がありました。まずは、ホルモンの過剰分泌をコントロールすることで症状の緩和をする「ソマトスタチンアナログ製剤」についての解説があり、続いての「腫瘍の治療」では、手術(切除)・ラジオ波照射術・肝動脈化学塞栓術・薬物療法(ホルモン剤・従来の抗がん剤)のほか、今後に期待されている薬剤の「CAPTEM」や、分子標的薬、さらに「ペプチド受容体放射線核種療法(PRRT)」についての解説と、薬剤の使い分けなどについてのお話がありました。NEC については、適応される抗がん剤治療と、現在行われているランダム化比較試験の説明がありました。

最後に、治療の効果が高かった「実際の治療例」を多数紹介していただきました。「みんながそうなるという訳ではないが、“勝ちパターン”を見てもらいたい」とのこと。森実先生の温かな気持ちが伝わる締めくくりとなりました。



続いての Q&A では、森実先生と加藤さんに、オンコロ・コンテンツ・マネージャーの柳澤昭浩さん、同じくオンコロの濱崎晋輔さんが加わって行われました。

今回も非常に多くの質問が寄せられました。「発見のパターンは?」「NET におけるプレジジョンメディスンについて」「自由診療の免疫細胞療法について」「遺伝のリスクは?」など、様々な質問に対して丁寧な回答がされました。

現在、報道などで広まっている医療情報について、森実先生は、「免疫チェックポイント阻害薬やプレジジョンメディスンについては加熱しすぎ。冷静に見る力も必要です」とお話されました。

今回は、定員を大幅に超える 40 名にご参加いただきました。このセミナーは、専門的なことがらや、学会で話されるような最新医療情報を専門医が解説するだけあって「難しい」という意見もなくはありません。しかし、質問内容の高度化や全体の満足度の高さを見ると、それだけ熱心に勉強をしたいという患者さんやご家族が増えているのは確かなようです。(詳しくは動画をご覧ください)



(開催日:2017年9月13日/写真・文 木ロマリ)

【共催】

国立がん研究センター希少がんセンター/がん情報サイト「オンコロ」/認定 NPO 法人がんネットワークジャパン

【後援・運営協力】

株式会社かるてぽすと/樋口宗孝がん研究基金/株式会社クリニカル・トライアル/株式会社クロエ